

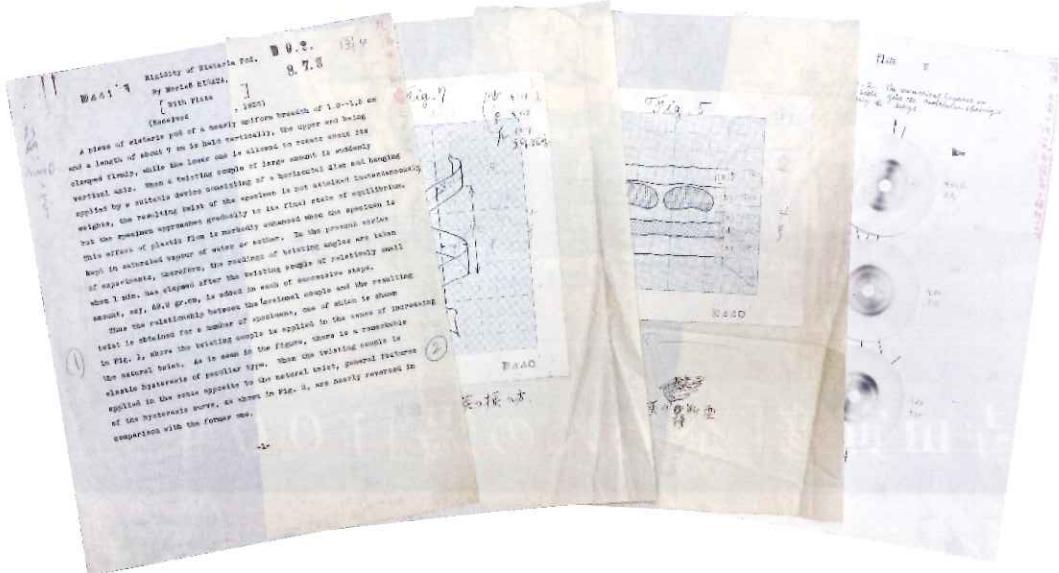
## 藤並の森

vol.98  
2022.08

リレー随筆

## 平田森三先生の思い出

高木隆司



平田森三「藤の実」論文／寺田寅彦「藤の実」論文図表(当館蔵)

今年は、寺田寅彦先生による隨筆「茶碗の湯」が出版されて100年目にあたる。このことに関連して、2020年に、高知県立文学館の川島禎子氏らと共に著で「科学絵本 茶わんの湯」を出版したが、それは私にとって楽しい思い出になつていて。それ以来、寺田先生や彼の弟子たちに関するエピソードなどを意識することが多くなつた。

その一つの例をここで披露したい。それは、最後の弟子と思われる平田森三先生とのつきあいである。

私は、この原稿を書いている7月中旬になると、決まって思い出すことがある。私は1940年に広島市で生まれた。4歳のころ、幸いにも広島市の東方の山中にある熊野町に疎開していたので、原爆の被害を受けなかつた。しかし、当日の朝、山越しに見た原爆の雲が、今でもはつきりと頭に残つている。それ以前の風景の記憶は残つていないので、私にとってはこれが原風景なのである。

私が大学生のころ、同じ学科に

属しておられた広島市出身の平田森三先生と話をする機会が多かつた。その際に、先生自身が広島市で被爆されたことを初めて知つた。息子さんと一緒に市電に乗つていた時のことと、大音響とともに振動を感じたと思う。そのとき、電車の乗客は一齊に窓の外に頭を出して周囲を眺めたが、先生自身は他の乗客よりも約0・5秒ほど早く出したとのこと。さすが、実験物理学の大家だと思った。それと同時に、息子は自分より早く死ぬかもしれない、寂しそうに話しておられたことも強い印象を受けた。

最後に、原爆の雲の1つの不思議について述べておこう。私の記憶では、この雲の所々がピンク色に染まっていた。何年か前、この色についてインターネットで調べてみると、青や黄色など、他の色を見たという人もいるようだつた。時間的に変化したのか、太陽光の当たり方でこのような違いが出たのか、いまだに不明である。

(東京農工大学名誉教授)

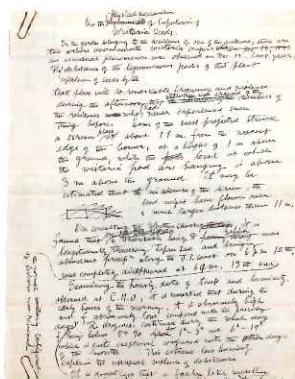


「寺田寅彦「茶わんの湯」100年

# ふしぎいろいろ展



「茶わんの湯」が掲載された「赤い鳥」8巻5号  
大正11(1922)年5月



論文「藤の実」草稿(個人蔵)

私たちには普段、自分の見る世界が唯一のものだと思いがちです。しかし、時々いつもと違うものの見方をしてみると、たくさんの発見があり、いつもの毎日に新しい刺激を呼び起します。「マツシンヤさん(いの町出身)の素敵なイラストに彩られたこの企画展は、小学生から大人の方まで楽しめるよう、さまざまな工夫をこらしています。

口ビーでは、寅彦の母校である高知市立江ノ口小学校の児童から寄せられた寅彦への質問とともに寅彦の人事物を紹介します。

また、寅彦は趣味が広く、隨筆も書き、絵や音楽を好みました。そのこと

物理学者の寺田寅彦の隨筆「茶わんの湯」が友人の鈴木三重吉主宰の雑誌「赤い鳥」に掲載されて、今年でちょうど100年になります。本展覧会では、子ども向けの科学隨筆の代表的な作品である「茶わんの湯」はじめとした寅彦の科学隨筆を取り上げ、その魅力に迫ります。

が、豊かな発想につながったのでしょ。ロビーでは「スチヤツと変身!」観察めがねで「スクササイズ」のコーナーを設け、科学者、文学者、美術家、音楽家の「めがね」で、異なるものの見方を体験いただきます。

企画展示室内では「茶わんの湯」電車の混雑について、「金糸糖」「藤の実」の4作品を取り上げ、寅彦が科学的に、また文学的に見ようとしていたものを紹介します。映像や朗読などを交えながらわかりやすく説明するほか、今回監修いただいた高木隆司先生、松下貢先生、山田功先生の科学的説明もパネルで紹介し、より深い知識を得たい人にも満足いただける内容となっています。また、初公開の隨筆「藤の実」草稿(個人蔵)をはじめ、論文「割れ目と生命」草稿、論文「藤の実」草稿など、貴重な資料の数々をご紹介します。

さまざまな刺激に満ちた展示で皆様をお待ちしています。この秋はぜひ、当館にお越しください。

(学芸課／川島禎子)

開催中です!

# おしりたんてい

## ぶんがくかんのぶんたんじけん

令和4(2022)年7月2日(土)~9月4日(日)

午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)



見た目はおしりでも推理はエクセレントな名探偵「おしりたんてい」が、数々の難事件をブツと解決していく謎解き物語「おしりたんてい」シリーズ。この作品の魅力を当館独自のアプローチを加えてご紹介する企画展「おしりたんてい～ぶんがくかんのぶんたんじけん～」が好評開催中です。



■このお話の主人公は  
【あなた】です

本展は、高知県立文学館の秘宝をめぐつてある事件が起こり、「あなた」が「おしりたんてい」と共に事件の謎を解き明かしていくという謎解き要素を含んだ展示構成となっています。

展示室には、まちがい探し、暗号解読コーナー、3個のおしりをさがせ!、床に書かれた正しい道をたどれ!などを設け、時には「おしりたんてい」からのアドバイスや、受付でお渡しするオリジナルの「たんてい手帳」を参考にしつつ、立体的に物語を巡っていただけるよう工夫しました。

2階ロビーには「おしりたんてい」に欠かせない喫茶店「ラッキー・キヤット」が登場。カウンターに座つてゆっくり「おしりたんてい」シリーズの作品に親しむことが出来るようになっています。

その他「おしりたんてい」の事務所や、魅力的な登場人物のスタンディパネルなど、驚きあふれるフォトスポットを多数用意しました。



本展は9月4日(日)まで開催しています。この夏は、「おしりたんてい」の魅力や「本と友だちなつて遊ぶ楽しさ」を体感しにぜひご来館ください。

それぞれのペースで様々な場所を調査しつつ、楽しい思い出を残していただければ幸いです。

会期中は、写真撮影会やオリジナル缶バッジ作りなどの関連イベントも開催。幼稚園・保育園などのグループで楽しめる団体プログラムも好評で、参加者の皆様から「大人も子どももいっしょに楽しめる内容でワクワクしました。」等の嬉しいお声が寄せられています。

# 花を愛する人の物語

色とりどりの花々が咲き誇る春真っ盛りの4月に始まった企画展「花を愛する人の物語」(My Secret Garden)は6月12日に無事閉幕となりました。

会期中は、お一人または少人数で来館され、一つ二つの展示を時間をかけてじっくりとご覧になる方が多い一方、県外の修学旅行生や地元の高校生、大学生など、学生の団体も多くご来館くださいました。

学生さんたちは「普段全く馴染みのない中東地域の本が見られて嬉しかった」「美しい人と花を重ね合わせたり、花が困難な状況に立ち向かうときの心の支えになっていたりと、作者の感性によって千差万別の表現がされている」と



その他の表現がされています。

花を通じて様々な国々の文学作品に興味を持っていただくことができました。展覧会では高知県出身の作家や翻訳作品にも注目しました。清岡卓行の『マロニエの花が言つた』は第一次、第二次両大戦間のパリを舞台に画家の藤田嗣治や詩人口ベール・デスノスら若き芸術家たちの青春群像を描いた作品。序章に描かれたパリ・モンテーヌ通りのマロニエの花の美しさや、5月1日、幸福を象るという可憐な鈴蘭を胸に挿し、楽し気に歩く人々の様子など、細やかで匂うような花の描写が印象的です。

その他にもバラ愛好家の刑事が主人公の森下雨村訳の『月長石』(W.W.コリングズ)、古典文学に詠まれた桜を散りばめた倉橋由美子の『夢の通ひ路』などの小説の他、嶋岡晨訳『バラと木犀草』(ルイ・アラゴン)、片山敏彦訳『りんどうの花』(ヘルマン・ヘッセ)など様々な花にまつわる詩作品などをペーパーフラワー、アートや植物画などとともにご紹介しました。

展覧会は終わりましたが、季節の巡りに合わせて様々な植物が芽吹き、つぼみをつけ、やがて花開きます。身近な花をきっかけにこれからも文学作品を楽しんでいただければ幸いです。

(学芸課／岡本美和)

感じた」などの感想を寄せてくださり、

花を通して様々な国々の文学作品に興味を持つていただくことができました。

花を通じて様々な国々の文学作品に興味を持つていただくことができました。

宮尾登美子の軌跡～悠久の歴史に生きた女性たち～

今年度は宮尾文学の中から歴史小説群をご紹介しています。

今回の展示では、第13代将軍に輿入れし、幕末の動乱期に徳川家に尽くした女性を描く『天璋院篤姫』、天皇家へ嫁いだ第2代将軍秀忠の息女の物語『東福門院和子の涙』、トレマイオス朝最後の女王の愛と苦悩の歴史絵巻『クレオパトラ』、独

自の解釈で平家の女性たちの生き

を描いた『宮尾本平家物語』の4作品を紹介いたします。

『宮尾本平家物語』は連載期間4年、201回にわたる長期連載で、完成原稿は3618枚に及び、「青龍」「白虎」「朱雀」「玄武」それぞれの巻に合わせて作った特装箱に収められています。

宮尾さんが『平家物語』を初めて読んだのは女学校の時。韻律や言葉の美しさに陶酔し、壇ノ浦の最後の場面で、安徳帝を抱いた二位尼時子が「浪のしたにも都のさぶらふぞ」という場面などに感動、いつか自分も書きたいと思つたといいます。

軍記物である『平家物語』はまさに男たちの物語で、女性たちの多くは本名すら出てこず、主体性を持つて描かれてはいません。宮尾さんは、男たちの影にいた1人1人の女性に思いを馳せ、『宮尾

本平家物語』の中で、歴史の重要な担当手として、それぞれの立場での精一杯の生を見事に描ききりました。連載後のインタビュー記事では「私が女性を書くというのは、その女性が世の中の流れや社会のしくみの中でどう生きていかを考えること」、「女性たちには世の中を見据える目をもつてもらいたい」と思いを伝えています。

『宮尾本平家物語』は連載期間4年、201回にわたる長期連載で、完成原稿は3618枚に及び、「青龍」「白虎」「朱雀」「玄武」それぞれの巻に合わせて作った特装箱に収められています。

その他にも『クレオパトラ』取材旅行の写真や、『天璋院篤姫』新聞連載時の挿絵原画、『東福門院和子の涙』の創作資料など貴重な資料を展示しています。また、愛用品のコーナーでは愛用の着物を季節ごとに入れ替えていきますので、お見逃しなく。

「宮尾登美子の軌跡～悠久の歴史に生きた女性たち～」は令和5年3月下旬まで開催中です。



(学芸課／岡本美和)

# 宮尾文学の世界室

久の歴史に生きた女性たち～

本平家物語』の中で、歴史の重要な担当手として、それぞれの立場での精一杯の生を見事に描ききりました。連載後のインタビュー記事では「私が女性を書くというのは、その女性が世の中の流れや社会のしくみの中でどう生きていかを考えること」、「女性たちには世の中を見据える目をもつてもらいたい」と思いを伝えています。

『宮尾本平家物語』は連載期間4年、201回にわたる長期連載で、完成原稿は3618枚に及び、「青龍」「白虎」「朱雀」「玄武」それぞれの巻に合わせて作った特装箱に収められています。

その他にも『クレオパトラ』取材旅行の写真や、『天璋院篤姫』新聞連載時の挿絵原画、『東福門院和子の涙』の創作資料など貴重な資料を展示しています。また、愛用品のコーナーでは愛用の着物を季節ごとに入れ替えていきますので、お見逃しなく。

「宮尾登美子の軌跡～悠久の歴史に生きた女性たち～」は令和5年3月下旬まで開催中です。

(学芸課／岡本美和)

## 商人俳人・広瀬李青のこと



潮江天満宮楼門の西側に立つ、  
広瀬李青(四代・丹吉)の  
「仰ぎ見よ、瀧は氷柱の玉すだれ」の句碑

(郷土史家)

これが朱明園・李青の句で、四代広瀬丹吉だ。丹吉は本名弥太郎。嘉永五年五月に長岡郡大津村、東山雄藏の二男に生。釣り針製造の老舗、広瀬家の養子となつた。丹吉鉤の名は、当時有名で、天明の頃から、高知城下・菜園場に店舗をかまえて、今に続いている商家である。

明治維新後も、東南アジア各地に釣り針を輸出、国内はもとより、英國、ノルウェー、ロシアなど各国の博覧会にも出品、国際的に釣り鉤・製造、販売をした。四代目丹吉は、若い頃から塩田無世機や尾崎五草による命名という。

五草は若い頃は、山内谷堂の小姓をしていたが、筆山の麓、潮江天満宮に大きな楼門が建つ。(高知市天神町)島村三四郎が刻つた、鳳凰の名作がある見事な遺構だ。その西隣に、二つの石碑がある。一つは、東京から土佐に芭蕉の正風を導入した明治俳壇の巨匠・尾崎五草の「卯の花の際から高し夜の山」という句。万葉仮名で書かれている。もう一つは「仰ぎ見よ、瀧は氷柱の玉すだれ」という自然石の句。

松淵で赤貧洗うが如き生活をしていた。文学では生活できない時代であつたらう。明治三十七年九月、マラリア性感冒にかかるて永眠。経済的に恵まれていた丹吉・李青は、師・五草の面倒を見る人ではなかつたか。五草没後、高知俳壇でも活躍、さらに短歌でも「千代の友会」を主宰、郷土文壇の世話役に任じたが、大正八年四月八日、六十八歳で死去した。「仰ぎ見よ」の句は、李青の三人目の妻が、熊野那智神社の宮司の娘であつたといふ縁で、瀧を拝観した折の句。没後丹吉鉤製造部の一回によつて追悼碑として造られた。一人の師弟愛を感じる、並び建つ碑と言えよう。

## 谷 是

### 寄贈資料から

### 資料受贈報告

『なきむしせいとく

沖縄戦にまきこまれた少年の物語

令和4(2022)年4月 49頁  
田島征彦氏寄贈



田島征彦さん  
は昭和15(1940)年大阪府堺市  
で生まれ、敗戦後、父の郷里である

高知県に移住。型

絵染とシルクス

クリーンによる

作品で数々の賞を受賞されている画家・絵

本作家です。ダイナミックで人の心にうつ

えかけてくる作品は、世代を超えて多くの

読者に愛されています。現在は、ライツワーカーとして沖縄に40年以上通い続けながら沖

縄の絵本の製作にも取り組まれています。

沖縄を舞台にした最初の絵本『とんとん

みーときじむな』は、自然の魅力を伝えた

作品です。しかし、子どもたちに沖縄のこと

を知つてもらうには十分ではない、と沖縄

戦と基地の問題を題材にした『てつぼうを

もつたキジムナー』、軍用航空機基地を造るため静かな暮しを奪われる不条理さを描いた『やんばるの少年』を手掛けています。沖縄の本土復帰から50周年を迎える今年、激しい戦いとなつた沖縄戦と日本復帰前の希望を描いた『なきむしせいとく』沖縄戦にまきこまれた少年の物語を出版、ご寄贈下さいました。

舞台は昭和20(1945)年の沖縄。主人

公の少年・せいとくは、いつも泣いているの

で、みんなから「なちぶ」(沖縄方言で泣虫のこと)と呼ばれています。戦争がひどくなり、父も兄も軍隊にとられ、せいとくは母

か、どうしたら防ぐことができるのか。(中略)起こさせないために、努力せなあかんのです。絵本を読んで、大人も子どもも一緒になつて、考えてもらいたいです。』とメッセージをよせていました。

当館では令和4(2022)年11月13日(日)の児童生徒文学作品朗読コンクールにて、特別審査員として田島征彦さんをお招きし、記念講演会を開催します。こちらもぜひご参加ください。

(学芸課／山崎真理)

(令和4年5月~7月)敬称略

▼宇和川駿「山内容堂他和漢聯句」

▼松本ゆり子「高浜虚子書」かをる氏」

▼浜口達男「濱口喬夫画」繩向四季花帖」

▼山泉進「大逆帖 大逆事件処刑」

記念出版 大逆事件の真実をあきらか

にする会編刊」

▼鶴山郁夫「人生百年の教養」

70周年 著 講談社刊」

▼湯浅篤志「謎の無線電信」

ウイリアム・ウォルター・セイヤー著

森下雨村訳 ヒラヤマ探偵文庫刊」

▼武田至之「万人の父になる佐竹音次郎

物語」横山充男・文

横えびし・絵 学研プラス刊」

▼吉岡國弘「吉岡さゆ子詩隨筆・エッセイ集

吉岡さゆ子著 吉岡國弘刊」

▼森田睦子「歌集 初虹」森田睦子著

短歌研究社刊」

▼吉岡國弘「吉岡さゆ子詩隨筆・エッセイ集

ギルティ編集局編刊」

窮理舎・窮理舍刊」

▼新青年研究会「新青年」趣味編集委員会編刊」

新青年・伊崎修通編

22号

五草は若い頃は、山内谷堂の小姓をしていたが、

筆山の麓、潮江天満宮に大きな楼門が建つ。(高知市天神町)島村三四郎が刻つた、鳳凰の名作がある見事な遺構だ。そこ

の西隣に、二つの石碑がある。一つは、東

京から土佐に芭蕉の正風を導入した明

治俳壇の巨匠・尾崎五草の「卯の花の際

から高し夜の山」という句。万葉仮名で

書かれている。もう一つは「仰ぎ見よ、瀧

は氷柱の玉すだれ」という自然石の句。

これが朱明園・李青の句で、四代広瀬丹吉

だ。丹吉は本名弥太郎。嘉永五年五月に

長岡郡大津村、東山雄藏の二男に生。釣

り針製造の老舗、広瀬家の養子となつ

た。丹吉鉤の名は、当時有名で、天明

の頃から、高知城下・菜園場に店舗をか

まえて、今に続いている商家である。

明治維新後も、東南アジア各地に釣り

針を輸出、国内はもとより、英國、ノル

ウェー、ロシアなど各国の博覧会にも出

品、国際的に釣り鉤・製造、販売

をした。四代目丹吉

吉は、若い頃から

塩田無世機や尾

崎五草による命

名という。

五草は若い頃

は、山内谷堂の小

姓をしていたが、

筆山の麓、潮江天満宮に大きな楼門が

建つ。(高知市天神町)島村三四郎が刻つ

た、鳳凰の名作がある見事な遺構だ。そ

の西隣に、二つの石碑がある。一つは、東

京から土佐に芭蕉の正風を導入した明

治俳壇の巨匠・尾崎五草の「卯の花の際

から高し夜の山」という句。万葉仮名で

書かれている。もう一つは「仰ぎ見よ、瀧

は氷柱の玉すだれ」という自然石の句。

これが朱明園・李青の句で、四代広瀬丹吉

だ。丹吉は本名弥太郎。嘉永五年五月に

長岡郡大津村、東山雄藏の二男に生。釣

り針製造の老舗、広瀬家の養子となつ

た。丹吉鉤の名は、当時有名で、天明

の頃から、高知城下・菜園場に店舗をか

まえて、今に続いている商家である。

明治維新後も、東南アジア各地に釣り

針を輸出、国内はもとより、英國、ノル

ウェー、ロシアなど各国の博覧会にも出

品、国際的に釣り鉤・製造、販売

をした。四代目丹吉

吉は、若い頃から

塩田無世機や尾

崎五草による命

名という。

五草は若い頃

は、山内谷堂の小

姓をしていたが、

筆山の麓、潮江天満宮に大きな楼門が

建つ。(高知市天神町)島村三四郎が刻つ

た、鳳凰の名作がある見事な遺構だ。そ

の西隣に、二つの石碑がある。一つは、東

京から土佐に芭蕉の正風を導入した明

治俳壇の巨匠・尾崎五草の「卯の花の際

から高し夜の山」という句。万葉仮名で

書かれている。もう一つは「仰ぎ見よ、瀧

は氷柱の玉すだれ」という自然石の句。

これが朱明園・李青の句で、四代広瀬丹吉

だ。丹吉は本名弥太郎。嘉永五年五月に

長岡郡大津村、東山雄藏の二男に生。釣

り針製造の老舗、広瀬家の養子となつ

た。丹吉鉤の名は、当時有名で、天明

の頃から、高知城下・菜園場に店舗をか

まえて、今に続いている商家である。

明治維新後も、東南アジア各地に釣り

針を輸出、国内はもとより、英國、ノル

ウェー、ロシアなど各国の博覧会にも出

品、国際的に釣り鉤・製造、販売

をした。四代目丹吉

吉は、若い頃から

塩田無世機や尾

崎五草による命

名という。

五草は若い頃

は、山内谷堂の小

姓をしていたが、

筆山の麓、潮江天満宮に大きな楼門が

建つ。(高知市天神町)島村三四郎が刻つ

た、鳳凰の名作がある見事な遺構だ。そ

の西隣に、二つの石碑がある。一つは、東

京から土佐に芭蕉の正風を導入した明

治俳壇の巨匠・尾崎五草の「卯の花の際

から高し夜の山」という句。万葉仮名で

書かれている。もう一つは「仰ぎ見よ、瀧

は氷柱の玉すだれ」という自然石の句。

これが朱明園・李青の句で、四代広瀬丹吉

だ。丹吉は本名弥太郎。嘉永五年五月に

長岡郡大津村、東山雄藏の二男に生。釣

り針製造の老舗、広瀬家の養子となつ

た。丹吉鉤の名は、当時有名で、天明

の頃から、高知城下・菜園場に店舗をか

まえて、今に続いている商家である。

明治維新後も、東南アジア各地に釣り

針を輸出、国内はもとより、英國、ノル

ウェー、ロシアなど各国の博覧会にも出

品、国際的に釣り鉤・製造、販売

をした。四代目丹吉

吉は、若い頃から

塩田無世機や尾

崎五草による命

名という。

五草は若い頃

は、山内谷堂の小

姓をしていたが、

筆山の麓、潮江天満宮に大きな楼門が

建つ。(高知市天神町)島村三四郎が刻つ

た、鳳凰の名作がある見事な遺構だ。そ

の西隣に、二つの石碑がある。一つは、東

京から土佐に芭蕉の正風を導入した明

治俳壇の巨匠・尾崎五草の「卯の花の際

から高し夜の山」という句。万葉仮名で

書かれている。もう一つは「仰ぎ見よ、瀧

は氷柱の玉すだれ」という自然石の句。

これが朱明園・李青の句で、四代広瀬丹吉

だ。丹吉は本名弥太郎。嘉永五年五月に

長岡郡大津村、東山雄藏の二男に生。釣

り針製造の老舗、広瀬家の養子となつ

た。丹吉鉤の名は、当時有名で、天明

の頃から、高知城下・菜園場に店舗をか

まえて、今に続いている商家である。

明治維新後も、東南アジア各地に釣り

針を輸出、国内はもとより、英國、ノル

ウェー、ロシアなど各国の博覧会にも出

品、国際的に釣り鉤・製造、販売

をした。四代目丹吉

吉は、若い頃から

塩田無世機や尾

崎五草による命

名という。

五草は若い頃

は、山内谷堂の小

姓をしていたが、

筆山の麓、潮江天満宮に大きな楼門が

建つ。(高知市天神町)島村三四郎が刻つ

た、鳳凰の名作がある見事な遺構だ。そ

の西隣に、二つの石碑がある。一つは、東

京から土佐に芭蕉の正風を導入した明

治俳壇の巨匠・尾崎五草の「卯の花の際

から高し夜の山」という句。万葉仮名で

書かれている。もう一つは「仰ぎ見よ、瀧

は氷柱の玉すだれ」という自然石の句。

これが朱明園・李青の句で、四代広瀬丹吉

だ。丹吉は本名弥太郎。嘉永五年五月に

長岡郡大津村、東山雄藏の二男に生。釣

り針製造の老舗、広瀬家の養子となつ

た。丹吉鉤の名は、当時有名で、天明

記念年やテーマに沿って展示が変わる当館名物

# 変れる/常設展

【現代の文学】コーナーの坂東真砂子を清岡卓行に、  
【近現代の詩歌】コーナーの岡本弥太を樋村浩に入れ替えました！

中国大連に生まれました。両親はともに高知県出身。清岡は紀行文「ふるさと土佐」で、自身が生まれ育った大連を「風土のふるさと」、父祖の地・高知県を「血縁のふるさと」と呼んでいます。

清岡が文学に親しむようになつたのは10代半ば、大連での中学時代。東京の第一高等学校へ進学してからは詩作を始め同校の校内誌に投稿。卓越した詩才を發揮します。その後東京大学仏文科に進みますが、入学翌年に休学。暗澹たる戦局の中、大連へと帰り、そこで終戦を迎える。戦後も数年間大連に留まり、同地で結婚。後年、清岡はこの終戦前後の青春期の体験をもとに小説「アカシヤの大連」を発表し、芥川賞を受賞しました。

大の野球好きでもあった清岡は、引き揚げ後、日本野球連盟(後にセ・リーグ事務局)に就職。同社や大学等に勤務しながら創作を続け、50代後半から文筆に専念。平成18(2006)年に83歳で死去するまで、詩、小説評論、エッセイと幅広く執筆しました。

「批評とはぼくにとって遂に、対象への／そこはかとない愛を語ることであるか？／ぼくに近づくな／ぼくから遠ざかるな／ぼくから一番よく見える所に立つてくれ。」

「見知らぬ友に」と題されたこの

清岡卓行は大正11(1922)年、中國大連に生まれました。両親はともに高知県出身。清岡は紀行文「ふるさと土佐」で、自身が生まれ育った大連を「風土のふるさと」、父祖の地・高知県を「血縁のふるさと」と呼んでいます。

今年、生誕百周年を迎えた清岡卓行。今回の展示では、その多様な作品の中から、二つの故郷——大連と高知に関する詩や隨筆、初期の詩作品、萩原朔太郎ら清岡が惹かれた詩人や画家に関する評論等についてご紹介しています。詩稿「さつき晴れに」をはじめとする自筆資料のほか、岡鹿之助の絵が表紙を飾る第一詩集『水つた焰』等、造本の意匠も見どころの一つかと思います。ぜひご覧ください。

(学芸課／小松路代)



若き日の孤独を灼きつくす情熱  
をわれらに与えよ

右記は、高知ゆかりの詩人  
樋村浩の詩「青春」の最初の一節  
です。

樋村は、独房の中で、孤独と拷問  
に耐えながら、若き日の友との語らい  
を思い浮かべていました。

樋村浩。本名吉田豊道。大正元年  
6月1日、高知市生まれ。幼時より  
神童と称され、10歳の時には、来高  
した久邇宮殿下の前で御前講義を行なつたり、童話や童謡を創作し、

発表しています。この年、2年飛び  
級で私立土佐中学校に入学します  
が馴染めず、県立海南中学校に転  
校。翌年、軍事教練反対運動を組織  
し退学。昭和5年岡山の関西中学校  
へ転校。翌年、卒業し帰高。日本プロ  
レタリア作家同盟高知支部に加入  
し、昭和7年「生ける銃架」「間島パ  
ルチザンの歌」をはじめ次々と反  
戦詩を書いています。この年、コッ  
プ・フラクションメンバーとして検  
挙され、翌年、懲役3年の実刑判決  
が下りました。

昭和10年、勅令により刑期は  
2年3か月に減輕され、6月、非  
転向のまま高知刑務所を出所。  
危険を感じた樋村は、東京の  
貴司山治を訪ね原稿を託し、詩集  
と研究書「日本詩歌史」の刊行を依  
頼。今日残されている資料は、貴司  
宅の床下に保存されていたものであ

り、貴司の尽力によるものです。  
昭和11年、再び人民戦線事件で檢  
挙され、昭和12年、心身を病んだ樋村  
は、土佐脳病院に入院。昭和13年9月  
3日、病院で死去。享年、26歳でした。

樋村は、人生において、ヒューマニズムへの不朽の希望と非転向を貫いており、この一途な若き詩人の行動は、あまりにも純粹であり、私たちの心を揺さぶります。

今回の展示では、樋村の原稿、書簡などもご紹介しており、昭和10年12月18日消印の石本所長宛の書簡には、京都で倒れた樋村が、高知へ帰つて静養することを伝えており、書簡の最後には「例の犬クンによろしく」と書かれています。この文面からは、動物好きであった彼の人間的な優しさとユーモアが伝わってきます。

日本プロレタリア詩の歴史に燐然と輝く革命的ロマンチズム詩人、樋村浩。

後年、彼を取り上げた小説が発表されました。土佐文雄の「人間の骨」大原富枝の「ひとつ青春」です。さらに、「人間の骨」は、昭和53年に、木之下晃明監督、佐藤仁哉(吉田豊道)南田洋子(吉田丑枝)といつた俳優によって映画化され彼の名前は、人々の知るところとなりました。原作はもとより企画・制作など、全て高知で行われ、実際の旧高知刑務所で撮影が行われました。是非、樋村浩のコーナーにお立ち寄りください。

(学芸課長／津田加須子)

# ショッピングより

今年は、各地で平年より大幅に早い梅雨明けとなり、藤並の森からも毎日いろいろな蝉の大合唱が聞こえています。8月も中旬となり曆の上では秋となりましたが、高知はまだまだ残暑が厳しい日が続きそうです。

7月2日から開催中の「おしりたんてい」展は、小さなお客様を中心につきさんのお客様にご来館いただきており、「おしりたんてい」の謎をがんばって解きあかしてくれています。ショッピングでは、絵本や読み物、アニメコミックをはじめ、原作オリジナルグッズのぬいぐるみ付工コバッグやキッズTシャツ、ププツとストア限定のおしりたんていやブラウン、かいとうしなど登場キャラクターのポストカード、その他いろいろな種類のグッズをご用意しております。当館にお越しの際には、是非ショッピングもご覧になつて下さい。

(総務事業課／山崎幸乃)



## 館長就任に寄せて

松尾 晋次



観測史上最短、わずか二週間で梅雨明けを迎えたかと思えば、連日の猛暑日。異常気象が叫ばれる近年の中でも、際立つ異常さ。こうなれば、もはや異常は「異常」ではなく、「通常」ではないか?と、そんな思いも過る中、樹木に囲まれ、静寂で冷涼な空気に包まれた藤並の森にある文学館に着任した。

藤並の森といえば、高校生の頃、文学館（当時は郷土文化会館）の隣にある県立図書館（現在は公文書館）に毎日のように足を運んだ。2階の学習室から森の緑を眺めながら参考書を広げていたこと、ここで知り合った他校の生徒と「おびづら」に励んだことなどが、昨日のよう思い出される。最近は、数時間前のこともおぼつかないというのに、若い頃のことは、半世紀近く経つた今でも鮮明な記憶としてよみがえる。

文化関係の仕事に携わった経験もなく、文学に対する造詣にも乏しい自分であるが、青春時代の思い出の地で働くこととなつた巡りあわせに感謝しつつ、素人目線のいい意味でのこだわりのなさ、肩ひじ張らない融通無碍の姿勢を大切に、存在感のある文学館づくりに貢献していきたいと思う。

夏真っ盛りの日差しが照りつける今も、大人気児童書「おしりたんてい」の企画展に来てくれた子供たちの歓声や届託のない笑顔が、館内に広がっている。ありがたいことである。

令和4(2022)年度 高知県立文学館

第25回 児童生徒文学作品

朗読コンクール

### ①地区審査 県内3会場

★西部会場	大方あかつき館	レクチャーホール
	8月19日（金）	午前10時50分～
★東部会場	田野町ふれあいセンター	多目的会議室
	8月23日（火）	午前9時30分～
★高知会場	高知県立文学館	1階 ホール
	8月25日（木）	午後1時20分～
	8月26日（金）	午前9時20分～

※高知会場は2日間を予定しています

### ②県審査・記念講演会（公開）

★会場	高知県立文学館	1階ホール
★日時	11月13日（日）	午後1時～
★各地区審査より選出された児童生徒が		
	県審査に出席します	
★特別審査委員	田島征彦さん	（染色家、絵本作家）による
		記念講演会も開催します。



## 高知県立文学館 カレンダー

開催中!!

## おしりたんてい

ぶんがくかんの  
ぶんたんじけん

おしりたんていの魅力的な世界を当館独自のアプローチを加えて紹介し  
「本と友だちになる楽しさ」をお届けします。

会期 令和4(2022)年7月2日(土)~9月4日(日)

観覧料 500円(常設展含) 長寿手帳等お持ちの方・高校生以下は無料



## 関連企画のご案内

## ●工作イベント

オリジナル缶バッジをつくろう!

おしりたんていのイラストを使って、ステキなオリジナルの缶バッジをつくろう!

日時 令和4年8月28日(日)

各日とも午後2時~午後4時まで【所要時間:約15~30分】

場所 高知県立文学館 1階ホール

参加費 当日の観覧券と、材料費100円が必要です。

申込 電話または文学館受付にて事前にお申込みください

## ●展示解説

~担当学芸員と一緒に、  
事件の場所を調査しよう!~

展覧会担当者による展示解説です。

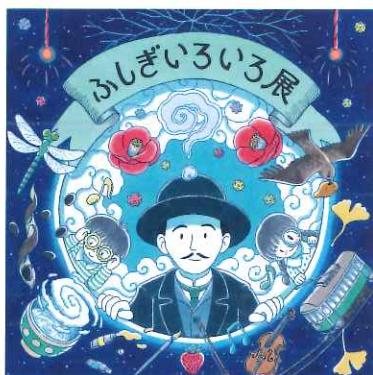
日時 毎週土曜日 午後1時30分~(約20分)

参加費 当日の観覧券が必要です。



©Troll/POPLAR

展覧会の紹介をしています! 詳しくは3ページ目をご覧ください。

次回  
開催!「寺田寅彦「茶わんの湯」100年  
ふしぎいろいろ展」

物理学者・寺田寅彦が身近なふしぎを書いた「茶わんの湯」をはじめ、  
「電車の混雑について」「金米糖」「藤の実」などの科学随筆の魅力にせまります。

会期 令和4(2022)年9月17日(土)~11月20日(日)

観覧料 400円(常設展含)長寿手帳等お持ちの方・高校生以下は無料

展覧会の紹介をしています! 詳しくは2ページ目をご覧ください。

- 新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みにご協力をお願いします。  
(マスクの着用・手指のアルコール消毒・適切な距離を保っての鑑賞・イベント時のホール入場前の検温など)
- 新型コロナウイルスの感染拡大状況によって、展覧会及びイベントは内容変更または中止となる場合があります。

高知県立文学館で開催する企画展・その他事業は職員全員で消毒・清掃を行い、  
安心・安全に利用いただけるよう感染予防・拡大防止対策を行っております。

## 利 用 案 内

開館時間 午前9時~午後5時(入館は、午後4時半まで)

休館日 年末年始(12月27日~1月1日)を除き、無休。

※その他メンテナンス等で臨時休館することもあります。

常設展一般370円 企画展はそれぞれ異なります。

20名以上の団体は2割引。高校生以下無料。

身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳、

戦傷病手帳又は被爆者健康手帳をお持ちの方とその介護者1名、

高知県・高知市長寿手帳をお持ちの方は無料です。

(窓口で手帳等のご提示をお願いする場合があります)

なし。ただし近辺に有料駐車場があります。

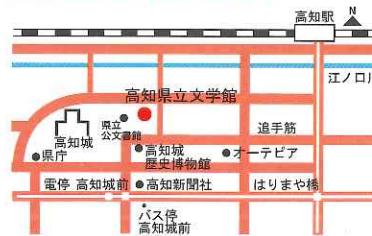
ホール、ミュージアムショップ、こどものぶんがく室、

茶室「慶雲庵」

企画展示室、ホール、茶室

公益財団法人 高知県文化財団

## 交 通 の ご 案 内



- 「高知城前」下車、北へ徒歩5分または  
<高知駅行>「北はりまや橋」下車、徒歩20分  
高知駒馬空港より空港連絡バス(県庁前行)
- JR高知駅下車、徒歩20分(または連絡バス・路面電車を利用)
- 路面電車「高知城前」下車、北へ徒歩5分
- バス停「高知城前」下車、北へ徒歩5分

高 知 県 立  
文 学 館  
〒780-0850  
高知市丸ノ内1丁目1-20  
電話 088-822-0231  
FAX 088-871-7857

高知県立文学館 検索

